

小崎直人さん(42)



「小崎・なおと」1975年、千葉県生まれ。2000年、慶應義塾大学医学部卒業。同大附属病院、静岡赤十字病院、済生会横浜南部病院、東京都立大久保病院(当時)、東京大学医学部附属病院、藤田保健衛生大学病院、埼玉社会保険病院等勤務を経て、09年より現職。医学博士。趣味は、「患者向けの疾患と治療の説明書」の作成。

「癒着性肩関節包炎」という整形外科疾患がある。肩関節包とはその名の通り、肩の関節を覆うようにして関節を保護する役目の保護組織。ここに強い炎症が起きると周囲の組織と癒着して可動域が狭くなる。無理に動かそうとすれば痛む。50代以降に多く見られるこの病気。早い話が「五十肩」だ。

年齢とともに生じる不調は、内臓ばかりではない。五十肩のように「運動器」に起きる不調は、日常の行動に直接的な制限を加える。

こうした整形外科の初期診療に、患者目線で取り組んでいるのが、東京都板橋区にあ

エコー診断で五十肩の「無駄と痛みのない治療」

る常盤台らいおん整形外科院長の小崎直人医師。東武東上線「ときわ台」駅から徒歩の場所に開院して6年。その存在は地域に浸透し、受診者数は一日平均200人に及ぶ。特色はエコー(超音波)装置を用いた診断と治療。整形外科の画像診断というとエックス線(レントゲン)を思い浮かべるが、「エックス線では見えない骨折もエコーで見つけられるものは多い。被ばくもないので有用性は高い」と小崎医師。

診断の8割にエコーを用い、五十肩の治療などではエコーで病巣を見ながら神経叢(そう)にブロック注射をした上で可動域を広げる処置をするなど、「無駄と痛みのない治療」に力を入れている。

「実は今年のお盆休みに院内を改装するんです」と小崎医師。現在、2つある診察室を3つに増やし、診療内容の充実を図ることにしたのだ。

「土地柄でしょうか。クチコミで親類や近所の人にウチのことを紹介してくれる患者さんが多いです。せっかくなら来ていただくのに長く待たせては申し訳ないので…」

元は骨代謝の研究をしていた「骨の専門家」。その知識と実績を生かした整形外科領域の地域医療の充実が、花を咲かせようとしている。

(長田昭二)

